平成２１年3月２７日

学校法人東邦大学　平成２１年度事業計画

Ⅰ.はじめに

昨今の教育、医療界を取巻く厳しい環境に加え、昨年来の世界経済の激変による景気や雇用の悪化により、本法人の経営環境はますます厳しさを増しています。

受験生１人あたりの受験校数の減少、学費支弁能力を失う家庭の増加、来院患者数の減少など本法人にとっても少なからぬ影響が予想されます。

平成２１年度は１８年に策定した中期経営計画の最終年度であり、本来、積み残している事業を推進する年ではありますが、計画策定時とは異なる環境の変化にあわせ、軌道修正が必要になる事案もでております。組織が適切な選択や決断をおこなうためには、全職員が問題意識を共有し、精度の高い情報の収集と伝達が必要であると考えます。

平成２１年度はこのような認識に基づき、下記の事業を推進すると共に、引き続き財政基盤の強化に取り組んでまいります。

Ⅱ.主要な事業計画

1. 教育

（1） 大学における入学志願者および優秀な学生の確保

大学における平成２１年度の入学志願者数は、医学科の 30.9%増をはじめ、看護学科 5.9%、薬学部 4.0%、理学部 4.1%とそれぞれ増加しました。全ての学部とも減少はとまりましたが、大学を取り巻く環境がまだまだ厳しいことには変わりありません。

平成２１年度は、さらなる志願者数の増加をめざし入試広報改革委員会を中心とする入試広報活動の活性化と、東邦大学の認知度の向上に努めてまいります。また、入学者選抜方法や学納金・奨学金制度等の見直しを含め、より優れた入学志願者の確保を目指します。

そのためにも、教員の質を高め、東邦の個性を意識した魅力ある教育を常に実践し、社会に広くアピールしていくことが、多くの入学志願者と優秀な学生を引きつけることであると考えています。

（2） 国家試験合格率の高位安定化

平成２０年度国家試験合格率は、医師 84.5%（全国平均 90.6%）、看護師の看護学科 97.2%・佐倉看護専門学校 92.6%（同平均 90.3%）、保健師 92.8%（同平均 91.1%）、

助産師 100%（同平均 98.1%）、薬剤師 87.8%（同平均 76.1%）、臨床検査技師 83.8%（同平均 73.7%）となりました。

そのなかで医師の国家試験合格率については、全国平均を大幅に下回りました。

今後は、教育における質の向上をはじめ、教育内容や教育体制等をさらに充実させ、学生一人ひとりにきめの細かい指導を行うことで合格率の高位安定を目指します。

（３） 教学環境の整備

本学では、教学環境を順次整備しています。平成２１年度は、医学科では講義室および実習室の改修、学生会館の整備・改修、看護学科では実習室の整備、理学部では研究室の改修、昨年度に引き続きトイレの改修に着手いたします。

付属東邦中・高等学校では、教育棟および白羽寮の改修、理科棟実験室の改修をそれぞれ行います。

（４）就職支援の充実と学部教育開発センターの設置

薬学部・理学部では、平成２０年８月１日付で就職室がキャリアセンターへ名称変更されました。学生が満足できる就職を実現するために、低年次から自分のやりたい仕事を理解させ、社会人として必要な力を育成して、それぞれの学生にとってより相応しい仕事に就くための支援を行います。

理学部では、学科横断的共通教育の内容を検討し、平成２２年度より実施できる体制を整えるための教育開発センターを設置します。

（５）付属東邦中・高等学校および駒場東邦中・高等学校の教育

少子化傾向が続く中で、国公立における中高一貫教育等の導入による学校活性化の動きは著しく、今後は公・私間の競争が一層激化するものと予想されます。付属東邦中・高等学校では、こうした情勢を厳しく受け止め、建学理念に基づく特色ある私学教育を推進し、優れた生徒を安定的に確保することを目指します。

駒場東邦中・高等学校は、毎日の授業をより一層充実させるために、教員の意欲をより一層導き出すことを心がけ、生徒にも学習意欲を持つよう促します。また、大学進学実績の一層の向上、少人数教育のための環境づくり、学習環境の整備、効果的な広報活動などを図っていきます。

（６）佐倉看護専門学校における生徒確保

４年制看護大学の増加により専門学校の志願者が年々減少する中、千葉県下においても今年４月、県立看護大学および看護専門学校２校が新設される予定です。

今年度の本校の入試倍率は約 3.4 倍、志願者数では昨年比▲20 名でありました。看護師育成のためには 4 倍から 5 倍程度の受験者数を確保しなければ優秀な生徒を選ぶことができないと考え、この２年間、千葉県内の高校 37 校を訪問し本校を PR してきました。今年度は、その範囲を看護学校が少ない東北地方、特に福島、宮城に拡大するとともに

千葉県内の高校の進路担当者を本校に招き、実習病院としての佐倉病院を含め本校の教育環境の充実度をアピールする機会をつくる予定です。

2. 研究

（1）研究の活性化

文部科学省科学研究費の申請件数、採択率の低さなど研究分野の低調さを大学基準協会の相互評価において強く指摘されています。

平成２１年度は、研究活動の活性化による外部資金の取り込みを強化し、研究支援サポート体制の確立を目指し、「研究支援センター」構想の実現に向けて具体的計画の策定を行います。

医学部では、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択および総合研究施設の機能的改修を弾みにして、競争的研究資金獲得の意識を高めると同時に、さらなる研究体制の改善を図ります。

（2）大学院の充実

本学の研究、教育の充実を目的に、平成２２年４月開講を目指して、医学研究科看護学専攻博士課程の再申請を行います。

薬学研究科では、平成２２年度より新制度下での修士・博士課程の教育体制の確立に向けて大学院修士課程の募集を停止し、平成２４年度より４年制の博士課程を設置する計画です。今年度は上記計画の円滑な実施のために十分な準備を行います。

理学研究科では、推薦入試の見直しを図り、研究の活性化を目指します。

3. 医療

（1） 大森病院の安定した経営と経営体質強化

新しい医療制度の中で経営環境の悪化は避けられない状況です。一方、特定機能病院としての本来の機能の充実や地域医療中核病院としての役割は日に日に増しています。

平成２１年度は、医療の原点に戻り、本来すべき役割を再確認し、且つ「魅力ある病院」を目指し、医療環境の充実と診療科の強化を図ります。また、平成２１年度の予算を達成し、安定した経営と経営体質改善を図り、諸策を確実に実行するため、病院経営の管理を強化しています。

（2） 大橋病院の新病院建設

平成２０年度は、２０年１０月７日開催の教授会での承認を経て、正式に新病院建設の検討に入りました。

平成２１年度は、具体的建設地の候補を検討し、必要な手続きをおし進めていきます。それに合わせて、院内においては、各部署から選出したメンバーによる横断的な委員会を組織し、新病院計画を立案します。

（3） 佐倉病院増床と新たな取り組み

佐倉病院は平成３年９月開院以来、300 床の病床数で地域医療に貢献するとともに、大学病院として教育、研究を進めて来ました。

しかし、増加する地域医療ニーズに応え大学病院としての機能を発揮するため、平成２０年５月に 396 床に、平成２１年春には 451 床へ増床します。これにより、佐倉病院は名実ともに地域中核病院として生まれ変わることになります。

診療面では、10 床の救急病棟体制を整備し救急病院としての基盤整備に加え、アイセンター、消化器センター、腹腔鏡下手術、新生児周産期施設機能、脳血管障害やパーキンソン氏病に対する総合的な診療機能などの強化を行なってまいります。

（４） ３付属病院看護体制の支援充実

看護学科・看護専門学校の基礎教育と３病院の現任教育の連携によって、優秀な人材の育成に努め、７：１看護体制の維持と看護の質の向上に向けて、優秀な看護職員を確保し、看護の質の向上と働きやすい職場環境を作ります。また、雇用形態の見直し・処遇の改善によって、モチベーションを維持向上させて離職防止を図ります。

4. 管理運営

（１） 財政基盤の強化

平成２１年度は帰属収支差額 981 百万円を目標に掲げ、その目標に向かって法人一丸となって取り組んでまいります。とりわけ収入の約７割を占める医療収入については、対前年度決算予想比 10.4%アップを見込んだ意欲的な予算を編成いたしました。

３病院とも選ばれる病院として生き残るべく、それぞれの現状を打破する積極的な施策を打ち出しております。

一方支出関連では、医療材料費を除き、教育研究経費、管理経費の合計は、対前年度決算予想比で 5.4%のアップとなりました。特に本学の認知度をより一層高め、東邦大学志願者数の大幅なアップを視野に入れ、広告費を対前年度決算予想比で 115.9%アップ、金額にして 177 百万円増額いたしました。

投資案件につきましては、大型投資を見合わせ、前年に引き続き抑制方向で臨みます。また新たに長期設備資金の借入はせず、過年度借入金の返済を順調に消化し、バランスシートの健全化を図ってまいります。

磐石とは言えない本学の財政基盤を強化することは、年度ごとの地道な数字を積み重ねることによってのみ、可能であると考えます。

（２） 医学部機構改革の点検に基づいた実質的な改革の推進

医学部機構改革審議を通じて提案した講座・研究室の統合に関する素案を微調整の上、平成２２年度からの実施を予定しています。平成２１年度から臨床系教員の増員を行いますが、常勤教員の勤務状況を正当に評価し、達成感やモチベーションを高めるために任期制を前提とした教員人事考課制度の導入に向けて検討を進めていきます。また、教員と教員（病院）という２つの職制の存在は、臨床系教員間の職分に対する認識や自覚

に変容をもたらしているため、教員の一元化について検討していきます。教員一元化と人事考課制度の骨子は策定しており、これを基に医学部機構検討委員会での具体的な審議を経て、数年内には施行にもっていきたいと考えています。

（3） ブランディング・プロジェクトの推進およびホームページの充実

コミュニケーションマークやステートメントを定め、新しいデザインシステムを導入してから３年目となる今年度は、東邦らしさを表出する具体的な施策や活動を実行し、その取組みを積極的に広報することで認知度向上をめざす新しい段階へ移行していきます。

ホームページに関しては、病院診療科サイトのリニューアルと同時に、学部学科の研究科サイトの充実にも努め、志願者増・患者増・優秀な教職員の獲得につなげてまいります。

以上